

令和4年度学校だより

学校教育目標 自主 責任 明朗



六中だより 5月号

開校43年目

〒352-0023 埼玉県新座市堀ノ内3-11-1

TEL 048-478-2764 FAX 048-482-0136

HP <http://www.c-niiza.ed.jp/j-dairoku>

全生徒数：658名



人間の在り方を共にはぐくむために
～ 美しく・温かく・常に前進 ～

校長 齊藤 直之

第六中学校の周りの木々も青葉若葉の目立つ季節となりました。新学期が始まって1ヶ月が過ぎましたが、生徒たちはそれぞれ新しい学年、新しい学級でよいスタートを切り、全体的に落ち着いた学校生活を過ごしています。

小学校までは、手に取るようにわかった子供の世界、それが中学生ともなると急に親の視野から子供が消えてしまう。今の子供たちは、早くからテレビやゲーム、インターネット等、様々な影響を受けています。中には営利のみを追求し、子供たちへの悪影響など少しも配慮していないものが、ちまたに氾濫しています。よほどしっかりとした考え、判断力をもっていないと、それらに押し流されてしまいます。

親自身が外での仕事に疲れ、ゆとりをなくしている間に、子供の生活が乱れてしまう場合が、最近は多く見られるようになりました。親の気づかないところで、どんどん自分たちだけの世界が広がっていきます。思春期になれば、子供たちは、当然自立への欲求が強くなります。そんな時でも親は慌てることなく、しっかりと「見えざる目」で子供の生活を見る、つまり親の心で子供の心をとらえることが大切です。

お金や物だけを与えて放任の家庭や、口うるさく過干渉の家庭の子供に、問題が生じやすいと言われます。基本的な生活習慣が崩れ始めると、お金の使い方や遊び、持ち物、服装など、生活のすべて

の面でルーズになり、だらだらした時間の過ごし方をするようになってきます。子供のちょっとした兆候を知ったときに、きちんと話し合いをもち、親として対応できるようにすることが大切です。親として、子供の生活態度、実態をきちんとつかむ努力が必要となります。

また、同じ屋根の下に住んでいながら、親と子が話し合う時間があまりない家庭も見られます。食事が終わると、ずっと子供部屋に消えてしまう。子供部屋が親も入れない「治外法権」の場になっているとしたら、ここは問題です。リビングにおける親子の語り、家族の団らんは貴重な絆をもたらせます。家族が仲良く、認め、励まし合い、明るく何でも話し合える温かな場所に。

中学時代、子供扱いは過保護となり、大人扱いは放任となります。この時期は、あまりにも密着しようとするとうるさがられ、性急に命令して反発されることがあります。また、日によっても対応に苦慮することもあるでしょう。家庭生活の中では、子供にとって厳しい面と、子供を受け入れる優しい面とがうまく調和していると、子供の発達は健やかに進んでいきます。子供に誇りと責任をもたせて、子供の自立への志向を励ましてください。親は、我が子に、「人間としてどう生きていくか」基本的な在り方を示していくことが肝要なのです。

学校でも「今」を大切に、自立に向けた教育活動を常に前進させて参ります。